技術・家庭科指導案	日時：1月　１８日（水）（２）校時　　場所：【木工室　２年３組】 指導者：高橋　豊

単元（題材）名： 小題材名　「製作」（かんな削りをしよう） ※の導入授業の工夫ＩＣＴ活用	指導目標： ①　こぐち削りを失敗しないための方法を体験と思考により，正確に理解することができる。（知識・理解）

参観の視点：①　生徒への指示が，タブレットによって視覚化でき，理解を早める効果につながっていたか。
②　班で仮説を立てる際に，自己の意見を持って話し合いに臨めていたか。
㊙　他の教科の授業でタブレットを活用する思いつきやひらめきは得られたか。

指導過程	生徒の学習活動	教師の支援	留意点/参観者メモ
導　入 （８）分	1　かんな削りの２つ体験と謎に挑むことを知る 2　道具と板の準備をする 3　こば削り体験を２分間で行う １分間で簡単に記録する	□提示　「こば削りとこぐち削り」をタブレットで示す。 □提示　実習の準備の仕方をタブレットで示す。 □タブレットのタイマーを活用し，スリル効果で集中を促す。	□１つめの体験「こば削り」でかんな削りが気持ちよく楽しいことであることを印象付ける。
展　開 （３７）分	4　こば削りのくずの様子を確認する 5　こぐち削り体験を２分間で行う １分間で簡単に記録する 6　こぐち削りのくずの様子と板の端が割れた問題点（以下：こぐち削りの悲劇）を確認する 7　こぐち削りの悲劇阻止に挑むために班で話し合う （1）　自分説を持つこと （2）　班の仲間と説をすりあわせて１つの仮説を立てる 8　班ごとに立てた仮説を発表し思考活動を共有する 9　発表内容を評価し正解とつなげる 10　正解の方法を体験する	□タブレットでこば削りのくずの様子を提示し解説する。 □タブレットのタイマーを活用 □２つの削りくずを指先で揉み潰す様子をタブレットで見せながら確認する。 □発問「なぜこぐち削りの悲劇は起きるのか，原因と対策を考えよう」を伝える。 □各班に検討用紙・付箋・フェルトペンを配る。 □考動議会と同じ方法であることと，１０分後に問答無用で発表することを伝える。タイマー活用。 □発表する班の仮説をタブレットで撮影し拡大して提示する。 □すべての班の思考の過程を評価する。 □正解の解説をし，思考の過程で出てきた行き詰まりを解消させる。 □失敗しない実感を持たせる。	□こぐち削りが手応え的にも困難なことと，板の端が割れてしまう現象が必ず起きることを印象付ける。 □１０分後にできた仮説は必ず発表の条件として以下の２つを設けていることで，のびのびと考えさせる。 ・珍回答枠もあること ・終わらなかった班はどんなことで迷ったかを述べること □発表内容から思考の過程をなぞり，不正解には行き詰まりを確認するコメントをする。
終　結 （５）分	11　自己評価として感想を記入する。観点は「なるほどと思ったこと」	□ＮＧ文としてよくある「今日習ったことをこれからに生かしたい」は「何を」が入っていないことを伝える。	

授業を終えて授業者より：

参観者よりコメント：

校長　　印	教頭　　印	教務　　印	主幹　　印	授業者　　印